

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和5年4月18日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立中央小学校 第6学年，全児童

実施児童数（ 80 人）

4. 調査の内容

（1）児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

- （ア）小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語、数学及び英語とする。
- （イ）出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- （ウ）調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」及び「書くこと」に関する問題を出題し、記述式の問題を一定割合で導入するとともに、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式によるものとする。

イ 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査（以下、児童を対象とする場合は「児童質問紙調査」、生徒を対象とする場合は「生徒質問紙調査」、児童及び生徒を対象とする場合は「児童生徒質問紙調査」という。）を実施する。

（2）学校質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」という。）を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・平均正答の全体的な分布状況は全国と比べ、ほぼ同じである。上位層は平均を少し上回っている。
平均正答率（本校 66／泉佐野市 62／大阪府 66／全国 67.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特 徴 が み ら れ た 設 問	
<p>【書くこと】 ○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる 1二 【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く (26.7/27.5)</p> <p>【情報の扱い方に関する事項】 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる 2三 相田さんが[資料3]の情報をどのように整理しているかについて説明したのとして適切なものを選択する (55.0/62.0)</p>	<p>【読むこと】 ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる 2四 資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができるそうなことをまとめて書く (58.8/56.2)</p> <p>【話すこと・聞くこと】 ○目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる 3二 寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く (72.5/70.2)</p>	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
(43)国語の勉強は好きですか	53.9	61.5	◇	7.6
(44)国語の勉強は大切だと思いますか	96.2	94.2		2
(45)国語の授業の内容はよくわかりますか	87.2	85.7		1.5
(46)国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	93.5	92.8		0.7
(48)国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか	80.8	76.8		4

○文章を読み取り、問題を解く力はついてきており、朝の学習で読解問題を中心に取り組んだ成果がうかがえる。記述式の問いはすべて全国平均を上回っており、本校が3年間取り組んできた「書く力」が培われてきていることがわかる。

○2つ以上の資料を読み取り、必要な情報を結び付けたり、選び取っていく力には課題があると考え。 (国2)の解答より、資料を読み込む時間がかかってしまったのではないかと考える。この点に関しては、国語の授業だけでなく他教科の時間にも、情報を捉える力の育成に注力していく必要性が高いと考える。

○(44)(46)の質問より、子どもたちの国語の学習に向かう意識の高さを感じることができ、さらに(45)の質問から、普段の授業づくりに対する意識の高さも感じられる。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

・全国平均とほぼ同じと言えるが、その全体像はなだらかな弧ではなく、いくつかの歪な起伏が見られる。

平均正答率（本校 63／泉佐野市 59／大阪府 62／全国 62.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
<p>【 A. 数と計算 】</p> <p>◇（ ）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ること課題がある。</p> <p>3(1) 2種類の辞書を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ。(65.0/70.3)</p> <p>◇「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ること理解している。</p> <p>4(2) 運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める。(82.5/75.7)</p>	<p>【 B. 図形 】</p> <p>◇台形の意味や性質について理解している。</p> <p>2(1) テープを2本の直線で切った四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ。(66.3/59.8)</p> <p>【 D. 変化と関係 】</p> <p>◇伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題がある。</p> <p>1(3) 椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く。(50.0/55.5)</p>

3. 学習状況調査より

質問項目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
(算1) 今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか(算数)	80.0	80.3		0.3
(算2) 解答時間は十分でしたか(算数)	92.5	84.5	◇	8.0
(51) 算数の勉強は好きですか	56.5	61.4		4.9
(53) 算数の授業の内容はよく分かりますか	85.9	81.2		4.7
(54) 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.3	93.3		1.0

○学力状況調査から

- ・『知識・技能』の観点(+2.8)や『選択・短答式』の問題形式(+0.8, +1.7)は例年全国平均より良い傾向があるが、『思考・判断・表現』の観点(-2.2)や『記述式』の問題形式(-1.7)は課題があるといえる。
- ・全体的に無解答率が全国より低く、あきらめずに、粘り強く解こうとする児童の意思を感じる。
- ・（ ）を用いた計算、計算の順序・きまりについて苦手意識を感じる。

○学習状況調査から

- ・肯定的な意見は多い中で、(51)算数の学習は好きかという問いに4.9%の差に課題を感じる。
- ・(算1)から上記と重なる部分はあるが、記述式のような苦手な問題形式にも、あきらめずに最後まで努力してやり抜こうとする意志を感じる。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	一定数の児童に、依然として課題が見られる。	「朝食を毎日食べていますか」に対する回答「全く朝食を取っていない」が5.1%と全国平均と比較して約3倍、「あまりとっていない」と合わせても、10.2%と全体の1割を超え、全国平均（6.1%）よりも高い。「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか」に対する回答も、「不規則」であると回答する児童が全体の25.6%と全体の4分の1を超え、全国平均よりも7%以上高い。学習に臨む態勢に課題があり、望ましい家庭生活に対する理解と啓発、それに係る学校からの発信方法も改善が必要であると思われる。
【学校での学習の様子】	半数の児童に課題が見られる。	「国語の学習は好きですか」に対する回答「好きではない」が19.2%と全体の約2割、「あまり好きではない」と合わせると46.1%となり、ほぼ半数が国語科の学習に前向きではない。「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する回答は96.3%とほぼ全員が大切だと感じていることから考えると、児童の学習意欲の向上には、日々の授業改善が欠かせないと思われる。また、国語科における現在の状況は、資料の活用や文章の要約など、他の教科でも必要な技能の習得やその活用に、少なからず影響を与えていると思われ、喫緊の課題であると思われる。
【学校での学習の様子】	4割近くの児童に課題が見られる。	「解答時間は十分でしたか（国語）」に対する回答「やや足りなかった」「全く足りていなかった」を合わせると37.5%と4割近くの児童が回答しており、これは全国平均より4.6%高い。「解答時間は十分だった」と回答する児童は35.0%と全国平均より5.7%高く、全体の3分の1を超えるため、テストに対する準備ができていない児童とそうでない児童の差が顕著である。普段の授業や評価活動において、全国学調水準のテスト形式がどの程度計画的に行われているのかを学年毎に研究調査し、「解答時間が十分である」と回答する児童を大幅に増やすことが、全体のレベルを大きく改善することにつながるのではないかと考える。

本校の取組

◎これまでの取組

本校の研究主題は、「自ら考え、書き、伝え合う力の育成」である。三年間の積み重ねにより、こどもたち一人ひとりの「書く力」がついてきたため、今年度は「伝える力」の育成に取り組んでいる。自分と向き合うための「書く力」を基盤とし、そこに相手意識を持って伝える取り組みを各学年で行っている。教員校内研修では、様々な講師の先生方から指導助言を頂くことにより、多面的な視点を持つ機会に恵まれた。「書く」から「伝える」への研究主題の広がりの中で、さらなる実践を研究し、こどもたちの「伝える力」をつけていきたい。

学力向上の取り組みとして、朝学習の時間に「文章読解」を通年取り組んできた。この取り組みを行い続けて4年目になる。この効果を今年度の学力調査から検証した結果、読解力の成果があった。よってドリルを活用した朝学習は継続していきたいと考える。水曜日の朝学習の時間は、全校で朝の読書タイムを行っている。昨年度から図書室が広く新しくなり蔵書数が増えた。そのこともあり学校図書館が「読書センター」だけでなく「情報センター」としてもさらに充実した。学校図書館を活用した授業もさらに取り入れやすくなり、国語科や社会科、総合的な学習の時間など多岐にわたり学校図書館が活用されている。算数教科では、問題解決型学習を全クラスで行っている。4年生以上は算数少人数担当教員が加わり、少人数・習熟度別指導を行い、こどもたちへより細やかな指導ができる態勢を整えている。さらに、休み時間を利用し6年生が2、3年生の九九を聞きに行ったり、4年生の割り算の筆算の特訓時間に「特別講師」という形で学習に参加している。教えてもらう側は、いつも以上に意欲的に、主体的に学習参加し、教える側は相手意識を持ち、自らの学びを深めていくことができる取り組みを行っている。

I C T活用の取り組みとして、積極的にクロームブックを授業内に取り扱っていきこうとしている。調べ学習のツールとしてだけでなく、スライド作りや観察記録、データ活用などの操作スキルの向上を目指している。担当者を中心に校内で教員研修を行い、教員たちも授業での活用方法を学び続けている。

生活向上の取り組みとして、「あんぜん・あいさつ・あいてのきもち」を生活重点目標としている。そこへ各学年の実態を考え、学年目標を立て、年間計画を立て実践を積み重ね続けている。教員たちはこどもたちが年間通して学年目標を意識し続けられるよう、掲示物を活用したり学年集会を行ったり、折に触れて学年目標に立ち戻る時間を作っている。委員会活動では、こどもたちが主体的になり、P D C Aサイクルを意識して活動している。今年度の体育委員会のこどもたちは体育集会を開き、運動がにがてと感じているこどもたちを対象にマット練習をしている。また、保健委員会では中央っこの課題である「睡眠」にスポットを当ててアンケートをとり、睡眠の大切さについて全校に向けて働きかけようと動いている。その他の各委員会活動も活発に取り組みを行っており、児童集会で発表したり元気に朝のあいさつ運動を行っている。

◎これからの取組

今年度の全国学力・学習状況調査結果から本校の課題を改善するために、以下のことに取り組む。

【国語】

- ・複数ある情報の中から、必要な情報だけを選び取れる力をつけていきたい。そのため国語科だけでなく、他の授業も活用し、資料の読み取りや調べ学習の充実を図って必要がある。
- ・「伝える力」を育成していくため、スピーチ、手紙を書く、感想を伝えるなどの活動をするときには、誰に向けて行うのかはっきり示し、相手意識を持つ習慣がつく授業づくりを行う。
- ・今まで積み重ねてきた「書く力」を高める指導は継続し、こどもたち自身が「書ける」と自信を持てる評価のあり方を考える。

【算数】

- ・普段の生活と結び付け、より算数を楽しく思える授業展開を検討していかなければならない。
- ・引き続き基礎基本の定着を図る。
- ・言語活動をしっかりと取り入れ、記述することに対する抵抗が下がるよう、習慣づける授業展開を考えたい。